

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 40人

② 算数 40人

③ 理科 40人

5 留意事項

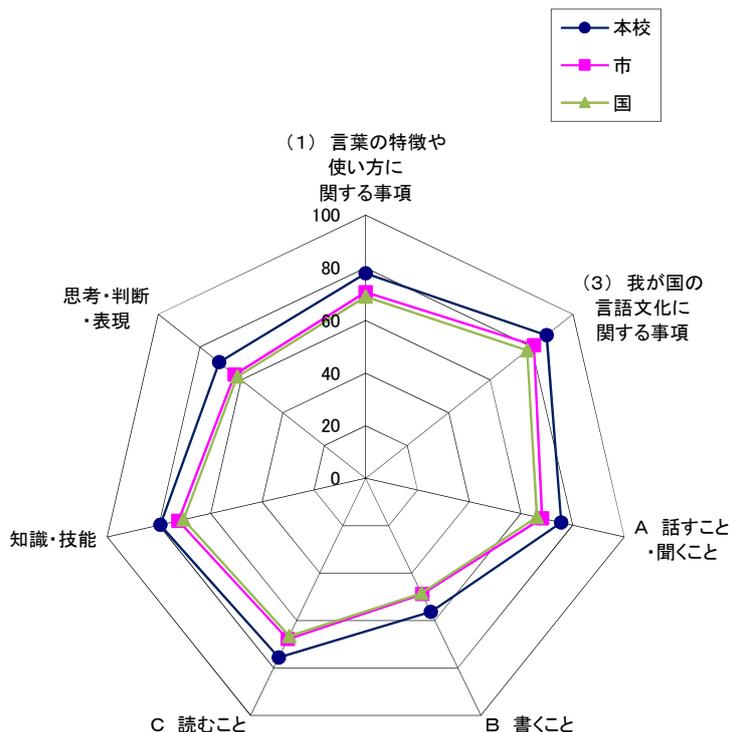
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	77.9	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	87.2	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	75.6	68.2	66.2
	B 書くこと	56.4	48.9	48.5
	C 読むこと	75.6	67.9	66.6
観点	知識・技能	79.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	70.8	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

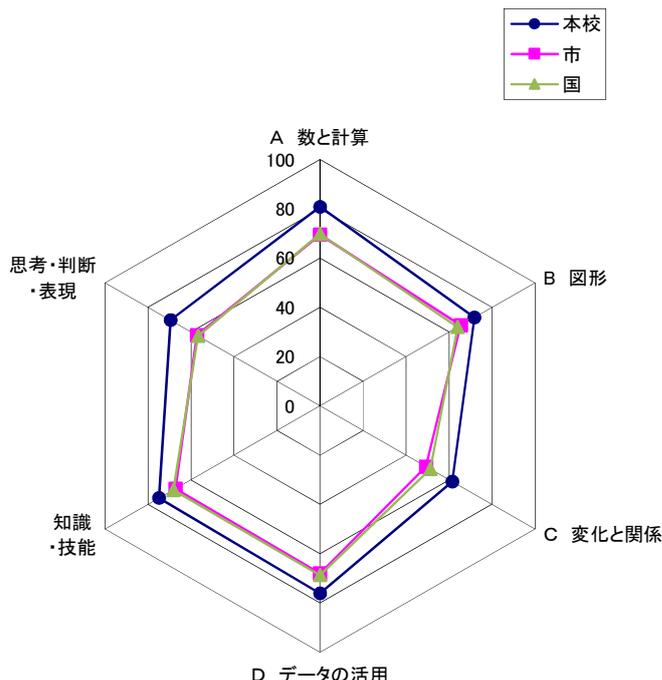
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を8.9ポイント上回った。</p> <p>○話し言葉と書き言葉との違いについては定着している児童が多い。また、話し合いの進め方についても理解している児童が多い。</p> <p>●漢字を文の中で正しく用いることができていない部分がある。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・朝の学習等を活用して漢字の小テストを行うことで、言語に関する知識の定着を図る。</p> <p>・日常生活の中で、文や表現に応じた漢字や言葉を適切に使えるよう、様々な学習活動で文や文章を書く機会を設定する。</p>
(3) 我が国の言語文化に関する事項	<p>平均正答率は、全国平均を9.3ポイント上回った。</p> <p>○漢字や仮名の大きさ、配列に気をつけて文章を書くことについては理解している児童が多い。</p> <p>●文章を書くときに、行の中心に注意することができていない部分がある。</p>	<p>・漢字練習や文章を書くときに文字の大きさ、行の中心を意識させながら取り組ませる。</p> <p>・朝の学習等を活用して視写を行うことで、意識しながら文章を書けるよう指導していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は、全国平均を9.4ポイント上回った。</p> <p>○話し合いの中で必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える内容について理解できている児童が多い。</p> <p>●条件に合わせながら自分の考えをまとめる問題では、文章を書いてはいるものの、条件を満たすことができていない児童がいる。</p>	<p>・各教科や学級活動、委員会活動などの話し合い活動に積極的に参加し、自分の考えを分かりやすく伝えられるよう意識させることを引き続き指導していく。</p> <p>・文章を書くときに、条件を与えながら書くことを意図的に設定する。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は、全国平均を7.9ポイント上回った。</p> <p>○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、自分の考えが明確に伝わる書き方については、おおむね定着している。</p> <p>●字数や提示された文章から言葉や文を取り上げて書く等、条件に合わせて文章を考えるという応用的な部分に課題がある。</p>	<p>・自分の主張を相手に分かりやすく伝えるという目的をしっかりと理解させながら、感想や振り返りを書くように指導していく。</p> <p>・字数を意識して文章を書く活動を取り入れていく。</p> <p>・自ら進んで書きたいと思うような条件作文等に取り組ませ、段落や内容の条件がある意見文が書けるよう、指導していく。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、全国平均を9.0ポイント上回った。</p> <p>○物語文において、登場人物の相互関係について描写をもとに捉え、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする力は定着している。</p> <p>●登場人物の行動や気持ちを叙述をもとに捉えることができていない。</p>	<p>・朝の読書などの読書指導や音読指導を引き続き行っていく。</p> <p>・多くの読み物資料に触れさせることで、登場人物の心情を捉える力の向上を図る。</p>

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	80.8	69.5	69.8
	B 図形	71.8	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	61.5	49.3	51.3
	D データの活用	76.1	68.0	68.7
観点	知識・技能	74.9	67.3	68.2
	思考・判断・表現	69.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

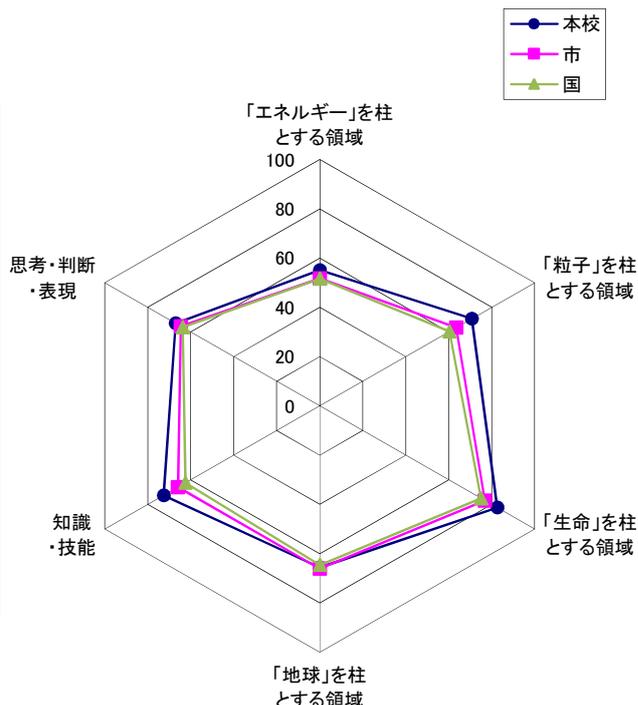
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、全国平均を11ポイント上回った。</p> <p>○示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する設問の正答率は94.9%と理解が図られている。</p> <p>●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する設問で、正答率は全国平均を上回っているものの、正答率は53.8%と約半数である。</p>	<p>・授業をはじめ、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、基本的な計算の仕方についてさらなる定着を図る。</p> <p>・日常生活の問題の解決のために必要な数量やその関係を捉える活動を取り入れ、事柄や関係を文で書いたり、図や式に表したりすることで数量的確な処理の仕方を身に付けさせたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、全国平均を7.8ポイント上回った。</p> <p>○正三角形の意味や性質を基に、正三角形を描くプログラミング構成の仕方について考察し、記述する設問の正答率は全国平均より20.4ポイント上回っており、理解が図られている。</p> <p>●示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ設問では、全国平均より8.9ポイント低く、48.7%と半数に満たず、理解できていない児童が多い。</p>	<p>・図形の定義や性質についての理解を深めるために、復習を徹底する。</p> <p>・学習した図形を実感的なものとして捉えられるよう、実際に図形をかいたり、プログラミング教材を用いて作ったりするなど、視覚的かつ体験的な活動を多く取り入れていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、全国平均を10.2ポイント上回った。</p> <p>○百分率で表された割合と基準量から比較量を求める設問の正答率は、94.9%と全国平均と比べて30.3%上回っており、多くの児童が理解することができている。</p> <p>●数量が変わっても割合が変わらないことを問う設問では、正答率が15.4%と、理解できていない児童が多い。</p>	<p>・授業をはじめ、朝の学習や家庭学習等で計算スキル・プリント等を活用し、割合の基本的な計算の仕方についてさらなる定着を図る。</p> <p>・問題文を丁寧に読み取り、問われている状況を整理し理解することの指導を継続していく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、全国平均を7.4ポイント上回った。</p> <p>○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して数量を求める設問では正答率がともに84.6%と、多くの児童が理解できている。</p> <p>●目的に応じてグラフを選択し、必要な情報を読み取る設問では、全国平均は2.4ポイント上回っているものの、正答率は69.2%で、データの読み取りに課題がある。</p>	<p>・他教科と関連させるなど様々な場面で、表やグラフを読み取る活動を取り入れ、目に触れる機会を多く設ける。</p> <p>・グラフや資料の内容を正確に読み取ることができるよう、継続的に丁寧に指導していく。</p>

宇都宮市立宮の原小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.1	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	70.8	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	82.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	65.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	72.6	65.9	62.5
	思考・判断・表現	67.1	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より3.5ポイント上回っている。 ○自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討・改善し自分の考えをもつ設問では、正答率が全国平均より2.9ポイント上回っていた。 ●日光は直進することを理解しているかを問う設問では、全国平均を上回っているものの、正答率が35.9%と理解が不十分である。	・児童の実態に応じた指導を充実させ、基本的な知識の定着を図りたい。 ・日光の性質は理解しているが、文章問題の状況理解ができていないことが考えられるので、文章を丁寧に読み状況を整理し、理解を深められるようにしたい。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国平均より10.4ポイント上回っている。 ○実験器具の名称を問う設問では、正答率が87.2%と、全国平均を19.4ポイント上回っている。また、実験器具の正しい使い方を問う設問では、正答率が79.5%と全国平均を9.5ポイント上回っている。 ●自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、内容を記述する設問では、正答率は全国平均を上回っているが、43.6%と半数以上の理解が不十分である。	・引き続き、実験器具の名称や正しい使い方を折に触れて確認し、基本的な知識や技能を定着させていく。 ・実験の結果から分かる考察や今後更に調べていきたいことなどを記述する機会を設けることで、実験や学習したことと身の周りにある事象とを結び付けて考察できる力や発展的な思考力を養えるようにしていきたい。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均より7.6ポイント上回っている。 ○昆虫の体のつくりを問う設問では、平均正答率が89.7%と全国平均を16.6ポイント上回っており、概ね理解できていると考えられる。 ●観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、内容を記述する設問では、正答率はやや全国平均を上回っているが、66.7%と理解が十分とはいえない。	・昆虫や人体の仕組みに関しては、復習を行い知識の定着を図る。 ・実験の結果から分かる考察を記述する機会を多く設けることで、実験や学習したことを俯瞰的に捉えて整理し、まとめる力を養っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、全国平均を1ポイント上回っている。 ○夜の気温の変化について予想を基に、結果を見通したグラフを選ぶ設問では、全国平均より7.3ポイント上回った。 ●観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ設問では、正答率が低く、また無答率も高く、課題がある。	・授業の中で、実験や観察の結果を文章でまとめ、発表をする場を多く設けることで、文章で記述する力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立宮の原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学級生活をよくするための学級活動での話し合い」「道徳での学級やグループでの話し合い」の設問に対して「当てはまる」と答えた児童の割合が全国平均よりも高く、友達と協力したり、話し合ったりして問題解決につなげていく力を伸ばしている様子が伺える。話し合いの進め方やルールについて引き続き工夫して指導していく。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」と回答した児童の割合は97.5%で9割を超えており、全校で「いじめ0月間」、児童会が中心となった「いじめ0集会」などの取組や道徳の時間などにいじめについて考える活動を行った成果であると考えられる。
今後も、児童会活動などを生かして全校体制で指導していきたい。

○月曜日から金曜日の家庭学習時間は、1時間以上の児童の割合は95.0%で、全国平均を上回った。家庭学習カードを活用した家庭学習が児童に定着したものであると思われる。今後も、家庭の協力を得ながら、実施していきたいと思う。

●「普段(月～金)、どれくらいの時間SNSや動画視聴(スマホ等含む)をしますか」の設問では「4時間以上」と答えた児童が全国平均を上回っている。放課後の時間を考えると、学習や睡眠が少なくなっている状況が見られる。保健指導や児童指導と連携したり、保護者会や学年だより等で家庭への啓発をしたりすることで、注意喚起を継続して行っていきたい。

●「学校の授業以外に普段(月～金)にどのくらい読書をしますか」の設問では「全くしない」と答えた児童を含めて読書時間が30分未満が60%と多い。普段、本を手にとって読む習慣は少なく、上記のようにSNSや動画視聴等で過ごしている状況が分かる。授業で図書を利用する機会を増やしたり、ブックトークなどで本を知る活動も取り入れたりしていくことが必要である。

宇都宮市立宮の原小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
楽しい授業・分かる授業の推進	課題提示、教材、板書、授業の展開を工夫したり、一人一人のよさを伸ばす言葉かけや支援を行ったりして、楽しく分かる授業の展開に努めている。	「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、90.0%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、87.5%、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、87.5%で、どの教科においても全国・県の平均より高くなった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習の手引き」や「家庭学習カレンダー＆振り返りカード」を活用したり、年間3回「家庭学習強化週間」を実施したりし、家庭と連携して目標時間や内容を意識した家庭学習の習慣化を図っている。	「家で、計画を立てて勉強をしていますか」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、80%で、全国・県の平均より高くなった。また、「学校の授業以外に、ふだん(月曜日から金曜日)、1日どのくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」の質問に1時間以上と回答した児童の割合が、95%で全国・県の平均を大きく上回った。
対話的な活動から学びを実感できる学習活動の工夫	「自分の思いや考えをもつ子ども」「進んで伝え合い、学び合う子ども」の育成を目指し、対話的な活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学び合おうとする授業を目指している。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問に肯定的に回答した児童の割合が、80.0%で全国平均よりは少し上回ったが、県の平均は少し下回った。